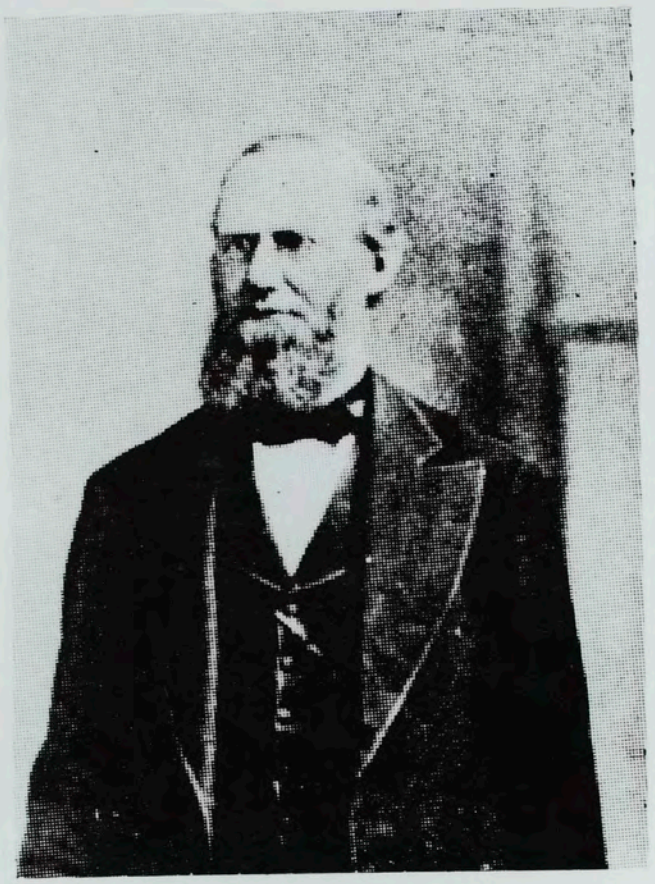

アマースト大学総長

J．H．シーリー

内村鑑三は明治十七年十一月米國に渡り翌十八年一月よりペンシルヴェニアッツ立白痴院（ケーリン師院長）に雇人として勞務に服し半ケ年を送つた。偶々宗教的苦惱を懷くことゝなり未解決のまゝ院を辭し、マサチュウセッツッツに向つて六月三十日出發した。有名なる漁港グロースターに駐まり、祈禱と視察に日々を送つた。時に、前進の道開け九月中旬、アマスト大学神学科第三年級に入学することとなり二十年七月学業を終了した。其間に多く学び經驗を積んだ。"在学中の或る日シーリー総長に呼び寄せられ、懇ろに十字架の救いの眞髓を示され回心の機を賜わつたことは最大無二の恩惠であつた"と敬虔の態度で屢々告白された。我が大恩人であると仰がるゝは至當の事と想ふ。